

## 【令和元年度実績】

### 1. 展示や各種企画を通じた大学の研究成果・学術資源の公開による社会貢献事業

No.35 ②-1 社会連携活動の全学的推進

No.36 ②-2 知縁コミュニティの創出・拡充への寄与  
計画

常設展示をはじめ多様な展示・各種企画を実施し、東北大学の学術資源の公開、研究成果のアウトリーチを進め、大学と社会をつなぐ窓口機能の一翼を担うとともに、社会連携活動の強化を図る。令和1年度は、センターとしての発信を強化すべく、新たな取り組みも開始する。

1) 社会連携課と連携・協力し、センターとして旧金研 10 号館1階の情報発信・公開スペースの整備計画を推進する。本学の各キャンパスの歴史や最新の研究成果等の発信拠点とし、効果的な展示計画や事業計画の策定を進める。また、全学の各部局に設けられた展示公開施設の利活用を図るため、連携した公開事業の計画を進める。特に、昨年逝去された西澤潤一元総長の研究成果を紹介するため、旧金研 10 号館公開スペースと、旧半導体研究所の西澤記念資料室、電気通信研究所の展示施設などを有機的に連携する取組を進める。

2) 博物館等の連携組織の仙台宮城ミュージアムアライアンス(SMMA)に学術資源研究公開センター全体として引き続き参画し、連携を強化する。センター3施設を紹介する企画展示「大學さんぽのススメ in 附属図書館」(7月1日～19日)を附属図書館エントランスで開催する。HPも統一化し、センター全体としての活動を強化する。

3) 総合学術博物館では、史料館と連携し、電気通信研究所等の協力を得て、宮城県庁県政広報展示室での企画展「西澤潤一と東北大学」(仮題・10月)を宮城県庁にて開催し、生命科学研究所との共催企画展示「日本とキューバのコウモリ」(仮題)の第2弾を開催する(10～11月予定)。本展示は、東北大学に在籍する海外研究者の研究成果を紹介する取組として行う。

4) 史料館では、卒業生等との連携による「校友アーカイブズ」事業の展開するため、卒業生その他の大学関係者から受贈した資料による「校友アーカイブズ」の充実を図り、同時に Web サイト上での情報発信により卒業生その他への本事業の呼びかけを強化する。さらに、「西田幾多郎と東北大学ゆかりの人々」に関する企画展示を石川県西田幾多郎記念哲学館と連携して開催する(7月)。

5) 植物園では、「5月4日は植物園の日、ふるさとの植物を守ろう」(日本植物園協会後援)では、5/2～5/6まで無料開園を実施する(3478名の入園者)。「紅葉の賀」(11月3日、文学研究科と共催)、技術職員による園内ガイドツアー(4回)を実施し、自然史講座「世界に植物を求めて：異国の植物たちとの遭遇」(5回)、植物画講座(2回)を開催する予定である。

#### 実績報告

1) 社会連携課・埋蔵文化財調査室と連携・協力し、センターとして旧金研 10 号館1階の情報発信・公開スペースの整備計画を具体化した。史料館は埋蔵文化財調査室と連携し、本学の各キャンパスの歴史を紹介する展示計画、博物館は植物園と連携し、西澤潤一元総長関係、旧金属博物館資料紹介、生物学科の歴史と現在を紹介する展示計画を策定した。経費執行の関係で、実際の展示室の整備は来年度に実施となる。さらに、史料館では本部事務機構、附属図書館とも協力し、西澤記念資料室の整備を行い、合わせて西澤潤一邸から西澤潤一関係資料(図書も含め

概算1万点以上)を収集し、展示公開のための基礎調査を行った。また、資料収集にあたっては、研究資料のみならず、卓越した研究の知的基盤たる研究環境そのもののアーカイブにも取り組んだ。金研10号館の整備については、東北大学2例目として官立高等教育機関営繕組織近代建築図面(東北帝国大学営繕課旧蔵)の登録有形文化財答申とその展示公開のためのアウトリーチ体制を整備した。

2) 博物館等の連携組織の仙台宮城ミュージアムアライアンス(SMMA)に学術資源研究公開センター全体として引き続き参画し、仙台市地底の森ミュージアムとのクロスイベント(2月15日・16日)などを実施し、ミュージアムユニバース(12月13日～15日)に参加するなど、連携を強化した。センター3施設を紹介する企画展示「大學さんぽのススメ in 附属図書館」を附属図書館エントランスで7月1日～19日に開催した。センターとしてのHPの充実化に向けた検討を実施した。HP充実化の第一段階として、総合学術博物館HPのスマートフォン対応を行った。植物園では、SMMA発行のパンフレット「旬の見験楽学便 2019 秋号」への取材協力を行い、ヤナギ科植物の研究者であった木村有香初代植物園長とヤナギ園の紹介記事を掲載した。さらに、SMMA イベント・ミュージアムユニバース(2019年12月14日～15日)で、植物園の紹介ポスターおよび展示品を展示した。2日間の入場者数は14日は496名、15日は794名の合計1,290名であった。

3) 総合学術博物館では、史料館と連携し、電気通信研究所などの協力を得て、宮城県庁県政広報展示室での企画展「西澤潤一と東北大学」を10月7日から11月1日の期間で開催し、西澤潤一が寄贈された旧制二高関連資料や総長期の歴史公文書を通じたバイオグラフィーと研究成果を結び付ける展示に寄与した。本展示では、観覧された市民から、展示期間の延長を希望する投書が『河北新報』に掲載されるなど、大きな反響を呼んだ。生命科学研究科との共催企画展示の第2弾として「もっともっと知りたい日本とキューバのコウモリ」を自然史標本館で開催した(10月1日～11月24日)。本展示は、東北大学に在籍するキューバから留学している海外研究者の研究成果を紹介する取組として行われ、在日本キューバ大使館のFacebookでも取り上げられた。

4) 旧制二高同窓組織と連携した取り組みを行い、10月6日に東京で二高有志会を開催し、合わせて明善寮・旧制二高関係者からなる新規同窓組織、蜂萩会結成に協力した。史料館では石川県西田幾多郎記念哲学館と共催して、夏季企画展示「西田幾多郎と東北大学ゆかりの人々」(7月1日～7月31日)を開催し、講演会も含めて1160名の来館者を見た。

5) 5月2日～5月6日までの無料開園により、3478名の入園者があった。読売新聞2件、FM仙台1件で報道された(植物園資料1)。11月3日に「紅葉の賀」(植物園・文学研究科共催 総合学術博物館協力)を開催し、野点、琴演奏、管弦楽演奏、ガイドツアーなどを実施した。入園者416名があった。6月～11月にかけて、技術職員による園内ガイドツアーを4回実施した。のべ27名が参加した。7月～11月にかけて、自然史講座「世界に植物を求めて: 異国の植物たちとの遭遇」(5回)、植物画講座(2回)を行った。

---

## 2. 独自性を活かした復興支援・震災記録事業の推進・展開

No.37 ①-1 東北大学復興アクションの着実な遂行

No.38 ①-2 復興に長期を要する被災地域への貢献

No.39 ②-1 科学的知見に基づく国際貢献活動

### 計画

センター各施設の特徴を活かし、復興支援・震災記録事業で独自の取組を継続している。

1) 平成 30 年度(4ヶ年の予定)から人間文化研究機構、東北大学、神戸大学が参加して「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」が実施されている。総合学術博物館はこの事業に参加し、歴史文化資料等の保全のための教育プログラムの開発と実施を通じたネットワーク形成を担当する。

2) 総合学術博物館では、震災遺構アーカイブ事業を継続し、防災教育や地域復興に活用する。

・原発事故の影響が大きい双葉町・大熊町・富岡町・浪江町と連携協定を締結し、被災施設や文化財の3次元計測を実施するとともに、活用のための協力体制を構築する。

・関係機関と協力し、震災遺構のVR技術による可視化体験を行うとともに、自然史標本館においても震災遺構の可視化体験会を行う。

3) 史料館では、デジタルアーカイブズの改善と並行して、過去の災害対応に関する公文書等の情報公開を進める。

・公文書館業務の一環として本学の東日本大震災対応・復興関係記録を把握し、将来の公文書室への移管準備を進める。

・「被災した紙媒体資料を対象とした安定的な保全技術活用の検討」を災害科学国際研究所と共同研究を行い、地域のための歴史公文書を将来にわたって保全・活用する技術構築を目指す。

#### 実績報告

1) 2018 年度から4ヶ年の予定で、人間文化研究機構、東北大学、神戸大学が参加して「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」が実施されている。総合学術博物館はこの事業に参画し、「歴史文化資料保全コーディネーター講座」を担当し、総合的知識を有した人材育成のための教育プログラムの開発を目指す。3月2日～4日に予定されていた対面での講座開催は、感染症対策のため中止となったが、資料集を作成配布した。

2) 原発事故の影響が大きい双葉町・大熊町・富岡町・浪江町と、連携協定締結のための準備を進めるとともに、震災遺構デジタルアーカイブの利活用に関するシンポジウムを3月18日に開催し、4町の取組について報告を受けて、今後の活用方法について討議する。富岡町・浪江町からは、受託研究を受け入れ、被災した小学校などの施設の3次元計測を実施した。双葉町でVRシステムを導入する際に、技術支援と3次元データの提供を行った。震災遺構のVR技術による可視化体験は、第31回日本老年学会総会(6月6～8日、仙台国際センター)、広島市立大学災禍とモノと物語り展(11月28日～12月4日、広島市立大学芸術資料館)、NHK 公開復興サポート明日へ in 気仙沼・クローズアップ現代+トークイベント(12月1日、気仙沼市立気仙沼小学校)、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(2月23日)、山梨県立大学(3月14日)など、全国各地で実施した。

3) 2020年10月の台風19号で被災した歴史公文書について全学的な調査を行い、被災公文書94点を同定し、その保全を行った。また水損した歴史公文書について災害科学国際研究所と「被災した紙媒体資料を対象とした安定的な保全技術活用の検討」の共同研究を通じて、真空凍結乾燥技術による資料のプリザベーション及びデジタル化の分析・検討を行った。さらに宮城県では基礎自治体を中心とした公文書館の国内最大協議会である、「全国歴史資料保存利用機関連絡協議会」の2020年度全国大会を東北大学に誘致し、災害と公文書管理に関する議論を促進させる計画を進めた。

### 3. 大学の有する自然環境・歴史的資源の保全と活用を通じた社会連携の強化

No.71 ①-1 知的交流と国際交流を促すキャンパス整備

No.81 ①-1 地域住民等との協働の緊密化

No.82 ①-2 校友間の協働の緊密化

#### 計画

1) 総合学術博物館と史料館は、広報課・施設部等と協力し、大学キャンパスの歴史的資源のさらなる保全と活用の方策の検討を進め、新たな有形文化財の登録準備を行う。

2) 史料館では、片平キャンパスにおける5件の登録有形文化財の片平キャンパス建物ツアーを仙台・宮城ミュージアムアライアンスの協力も得て行う。また、新たに登録有形文化財となった東北大学史料館所蔵の「官立高等教育機関営繕組織近代建築図面」(平成31年3月18日に登録有形文化財の美術工芸品に答申)を活用し、ホームカミングデーや片平まつりなどで企画展示を行う。

3) 植物園は、下記の企画を行う予定である。

・総裁・秋篠宮皇嗣殿下ご臨席の下、「日本植物園協会大会仙台大会(2019年)」を開催する。大会では秋篠宮皇嗣殿下の園内ご視察があり、マスコミ報道が14件行われた。

・9月のホームカミングデーにおいて理学研究科と共同し、理学菽友会記念講演会「平成から令和へ、未来へ受け継ぐ仙台北城御裏林」を植物園で開催する。同じくホームカミングデーに焦点を合わせ、附属図書館、史料館、植物園、埋蔵文化財調査室の合同特別イベント「東北大学の過去から現在へ」(9/11～10/3)を附属図書館で開催し、ホームカミングデー当日にはミニ講演会を実施する。

・東北大学植物園基金も活用し、青葉山の魅力を伝えるため植物園を中心とした「青葉山自然史公園」の構想を、総合学術博物館と協力して目指す。

・八甲田分園の活用を促進するため、青森県、弘前大学、浅虫研究所等との連携強化を目指す。

#### 実績報告

1) 総合学術博物館と史料館は、社会連携課・施設部等と協力し、片平キャンパスの歴史的建造物の、有形文化財登録のための調査と資料作成の準備を進め、来年度の登録手続きを行えるように準備した。史料館では、総合学術博物館、社会連携課、資産管理課等と連携し、片平キャンパスを中心として、現在の登録有形文化財(建築物)の倍となる10件の登録有形文化財候補を選定し、その歴史低価値の分析を進めた。

2) 社会連携課と協力してホームカミングデーでは、片平キャンパスツアー、展示・講演会「東北大学の過去から現在へ」、写真展「あの日の東北大学(1960-1980年代)」を実施した。またSMMAと連携した「片平キャンパス歴史散歩」を2回、「トークテラス」イベントを1回企画した。

3) 5月23日～5月25日にかけて、総裁・秋篠宮皇嗣殿下ご臨席の下、「日本植物園協会大会仙台大会(2019年)」を開催した。参加者は全国各地の植物園から154名を数えた。大会では秋

篠宮皇嗣殿下の園内ご視察があり、マスコミ報道が 14 件行われ(植物園資料 3, 4)、全国的に大きな注目を集めた。文教ニュース(植物園資料 5)にも掲載された。

・令和元年 9 月 28 日 東北大学理学部・理学研究科ホームカミングデー理学菽友会記念講演会「平成から令和へ、未来へ受け 継ぐ仙台北『御裏林』～東北大学植物園の魅力に迫る!～、お煎茶席「仙台北のお庭で寛ぐ上質な一刻を」(理学部・理学研究科、理学菽友会、青葉理学振興会、学術資源研究公開センター主催)(<https://www.sci.tohoku.ac.jp/rigaku-alumni/>)を植物園本館講義室および園内で実施した。73 名が参加した。6 月 1 日の本学懇談会において無料開園を実施し、秋篠宮皇嗣殿下ご来園直後ということもあり、345 名の入園者があった。

・植物園では 2018 年 10 月に植物園未来基金を設立したが、2019 年 6 月 4 日に NHK 仙台「てれまさむね」などで天然記念物「青葉山」保全の基金として報道され(<https://www.sci.tohoku.ac.jp/about/report.html>)、注目を集めた。それ以外にも機会を捉えて広報活動を行い、現在までに、31 件 273 万円の寄附が寄せられた。

・1 月 10 日に東北大学学術資源研究公開センターと弘前大学工学部と連携協定を結び、弘前大学と調印式を行った。今後、八甲田分園、弘前大学、浅虫研究所等と教育や研究活動で連携を組んでいくことを確認した。

---

## 4. 公文書管理による大学運営への貢献

No.79 ①-1 多様な教育研究活動等を支える情報基盤の活用充実と高度化

No.80 ①-2 学術情報拠点としての図書館機能の活用

### 計画

1) 史料館は、本部事務機構と連携し、法人文書および歴史公文書の適切な管理を進める。人事記録、教授会議事録等、重要な歴史公文書の公文書室への移管を継続して行い、本学法人文書管理体制の合理化と、東北大学の理念に関わる記録を大学運営に還元できる体制をさらに進展させる。また、本学の公文書管理委員会等での検討等を踏まえ、文書管理担当者を対象とした研修を継続して、その充実を図る。そのために、必要な本学歴史公文書の保管環境を確保整備するよう努める。

2) 史料館は、大学運営の記録を体系的に残し東北大学のレガシーの軸となる、「総長・理事・副学長アーカイブ事業」を展開し、肖像写真の撮影・保存、事績ヒアリングの編集、収集資料の整理を行う。

### 実績報告

1) 本部事務機構の協力の下、現用・非現用のライフサイクルに基づく適切な公文書管理と評価選別・移管を実施し、歴史公文書の保全に努めた結果、本年度は国際標準 6%を越える移管率 7.39%を達成した。

2) 史料館では、第 21 代総長期の 12 名の執行部に関する事績ヒアリングのデータベース化を進めると共に、東北大学の理念の形成過程について、第 9 代高橋里美総長の関連資料を再整理し、その成果を、夏季企画展示「西田幾多郎と東北大学ゆかりの人々」(7 月 1 日～7 月 31 日)で

展示した。また法人化以降の旧帝国大学間のアクションプラン、ビジョンを分析し『まなびの杜』等の学内媒体で広報を行った。

## 5. 先端技術を活用した学術資源利用の促進

No.19 ①-1 長期的視野に立脚した基礎研究の充実

No.26 ①-1 多彩な研究力を引き出して国際競争力を高める環境・推進体制の整備

No.33 ②-4 国際共同利用・共同研究拠点及び共同利用・共同研究拠点の機能強化  
計画

1) 総合学術博物館では、バーチャル・リアリティ(VR)システムの実用化を進め、災害記録等の長期保全、高解像度復元ができる記録体制の構築を継続して行う。さらに、安価な3次元可視体験装置の実用化に関する共同研究も民間企業と継続する。また、高分解能X線CT設備(学内共同利用)を活用し、学内外の機関の多様な分野の研究者との共同研究を継続し、新しい学際的な研究領域の創出を目指す。また、東北放射光計画に協力してX線CTによる基礎研究も継続して行う。

2) 史料館と総合学術博物館は、学際科学フロンティア研究所と「分野横断的デジタルアーカイブによる創造のためのミュージアム」に関する共同研究を行い、新たな学術資源の検索ネットワークを構築し、外部から東北大学の学術資源の検索が容易に行えるシステムの確立を目指す。

3) 史料館は、工学研究科都市・建築学専攻、埋蔵文化財調査室と共同で、「地方中核都市における官立高等教育機関の学際的・歴史学的研究」を行い、地方中核都市の成立に官立の教育機関が果たした役割と都市・建築の近代化モデル成立に関する研究を行う。

4) 植物園は、地球温暖化が引き起こす生物多様性の影響を長期的に観測・予測をするため、植物園本園だけでなく、八甲田分園におけるモニタリング活動をさらに充実させる。これにより生物多様性に関する国際的な情報発信を行う。また、地理的に近接する浅虫海洋生物学教育センターと連携し、海拔0メートルから高山域までの生物多様性に関する系統的な研究・教育を行うことを企画する。

### 実績報告

1) 総合学術博物館では、バーチャル・リアリティ(VR)システムの実用化を進め、文化財への応用として、福島県立博物館のもと、企画展「あにまらず 動物の考古学」の一環として、11月1日～10日に福島県双葉町清戸迫横穴墓のVR体験を同博物館で実施した。高分解能X線CT設備(学内共同利用)を活用し、学内外の機関の多様な分野の研究者との共同研究を継続して実施した。

2) 学際科学フロンティア研究所領域創成研究プログラム「分野横断的 デジタルアーカイブ による創造のためのミュージアム」に工学研究科都市建築学専攻と協力して研究を行い、3月にデザイン学の観点から学内学術資源をもとにした作品展示を、片平キャンパスで行った。

3) 東北大学ポケットガイド【テクルペ】と連動した歴史遺産マップを作成し、成果公開に努めると共に、研究会1回、ポスター展示1回を開催した。また1911年以降1949年までの東北大学営繕課の人物履歴データベースを作成した。

4) 植物園本園の天然記念物指定範囲は、環境省のモニタリングサイト1000事業の準コアサイトとなっており、今年度も植生概況調査、陸生鳥類調査を実施した。八甲田山分園では、八甲田山

における生物多様性および環境モニタリングの研究を7件受け入れ、積極的に支援した。これらの成果の一部は、環境省モニタリングサイト1000のHP (<http://www.biodic.go.jp/moni1000/index.html>)で随時発信されている。また生命科学研究科附属浅虫海洋生物学教育センターと連携して、青森県内における生物学研究の拠点を形成することについて、話し合いを開始した。